



福島県社会福祉協議会会長感謝表彰 受賞

ボランティア桧原 ボランティアこぶしの会（滝原） ボランティアつくしんぼ（全地域）



↑ ボランティアつくしんぼ



↑ ボランティア桧原



→ ボランティア
こぶしの会（滝原）

平成30年2月24日、福島市のパルセいいざかにおいて開催された「第20回ふくしまボランティアフェスティバル」において、ボランティアつくしんぼ（代表 渡部 ユキ子さん・会員数12名）・ボランティア桧原（代表 片山 一雄さん・会員数35名）・滝原ボランティアこぶしの会（代表 板橋 徳美さん・会員数17名）が福島県社会福祉協議会会長感謝表彰を受賞しました。

ボランティアつくしんぼは、平成22年4月に発足されました。「心や体に障がいを持つ方のよき理解者となり、安心して生活できる地域づくりを目指すことを活動方針に掲げ、知的障がい者の社会復帰事業「つくしの会」との共同活動や、精神障がい者社会復帰事業「ＹＹサークル」への協力等、地域の中で暮らす精神・知的障がい者の方が安心して暮らせるように協力・支援を途切れることなく積極的に行っています。

ボランティア桧原は、平成17年4月に発足され、地域ふれあいサロン「桧原はつらつクラブ」の立ち上げ当時から活動を支援しています。受け手とか担い手とかでなく、みんなで楽しむことができるような活動を継続して行っています。

滝原ボランティアこぶしの会は、平成21年4月に発足され、地域に住む高齢者が安心して生活できる地域づくり、又、住み良い環境づくりを積極的に行っています。



↑ 町内のボランティア団体から18名の方が参加されました

「人のつながり」助け上手 助けられ上手になろう

ボランティア活動は、以前、「ボランティア＝奉仕」と考えられており、恵まれない気の毒な人のために行う奉仕・善意活動という認識で「～してあげる」という責任感・使命感が強かったのではないのでしょうか？

現在のボランティア活動とは、子ども・高齢者・障がい者が共に生き、共に学び、共に育ち、共に暮らしていくために「何かやりたい！」と思うことを主体的に行う行動になり、「自分のできることをして自分自身を向上させる」という考えに変化してきました。特定の誰かだけでなく、「みんなが幸せになれるよう」に取り組む活動や仕組みづくりが今後益々大切になってきます。





↑余興の後、お楽しみの会食会



大谷「世代間交流食事会」 大谷ボランティアすみれ会 (代表 二瓶 譲さん)

- 参加者数 43名
- 実施内容 75歳以上の高齢者を招待し会員と共に食事会や余興により楽しい一日を過ごす。
- 参加者の感想・今後の課題 日本舞踊やひょっとこ踊り等盛りだくさんの芸をみせていただき楽しい一日を過ごすことができました。招待者全員の出席は見る事ができませんでした。いかにして多くの方に出席していただけるか再検討をし来年に備えたいと思います。

西方「配食サービス・友愛訪問」 ボランティアいわくら (代表 山垣 光英さん)

- 参加者数 54名
- 実施内容 地区内の85歳以上の方に弁当を作って届け交流を図る。
- 参加者の感想・今後の課題 毎回の弁当を楽しみにしており、感謝しています。高齢者は益々増えて、それを賄う会員の高齢化と補充ができていない。会員の増加を図っていきたい。



←心こもったお弁当

間方「ふれあいリフレッシュ事業」 (代表 菅家 壽一さん)

- 参加者数 21名
- 実施内容 地区民が一同に集い、チームを編成してワナゲ大会を行う。日頃困っていること等を話したりして親睦を深め心身ともにリフレッシュした。
- 参加者の感想・今後の課題 童心にかえり楽しめた。子供もいたのでさらに盛り上がった。もっと参加する人が多くなるように工夫が必要である。



↑景品を目の前にして、いざ勝負！

高清水・小山「年忘れワナゲ大会」 (代表 矢澤 昇さん)

- 参加者数 24名
- 実施内容 地区民が一同に会する機会を設け、お互いに元気な様子を確認しつつ健康増進のためにワナゲ大会を行う。
- 参加者の感想・今後の課題 楽しい一日であった。来年も実施してほしい。高齢化が進み、参加者減少が心配です。



↑優勝おめでとうございます！



地域ふれあい配分事業

あたたかい地域づくりへの取り組みです

世代間交流・高齢者生活支援事業に
12団体472名が参加

☆歳末たすけあい募金の使いみち☆

三島町社会福祉協議会では、毎年、歳末たすけあい募金の配分事業として、12月から2月までの間、「地域ふれあい配分事業」を実施しています。

この事業は、歳末たすけあい募金を地域の中で活用し、特に高齢者が不安を持ちやすい冬の時期に実施する事業で、高齢者や障がい者と子供達との世代を超えた交流会や、生活支援活動（除雪排雪・友愛訪問等）など、住民が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような「地域ふれあい・支え合い活動」に対して助成するものです。

大登「配食と豆まき」 ボランティアさつき会 (代表 馬場 久子さん)

- 参加者数 35名
- 実施内容 手作り弁当に花コマを添えて、声かけを忘れずに弁当を配る。
- 参加者の感想・今後の課題 配食には男性の協力があり、各家庭に配ることができて本当に良かった。又、訪問先では喜びの声が聞かれ実施してよかった。会員各自が役割を果たし笑顔で弁当を作ることができて楽しかった。



「訪問先の声」
「いつもありがとう。世話になるばかりで本当にありがとう。」

宮下・荒屋敷・桑原・中平 「子どもと高齢者のつどい」 (代表 目黒 政寿さん)

- 参加者数 30名
- 実施内容 半沢先生をお招きし、一枚の紙とはさみを使って紙と光の立体アート作品を作る。
- 参加者の感想・今後の課題 先生の優しく丁寧な指導もあって切り方を変えて何個も作ることができた。参加者が年々減っているように思われる。週末にイベントが重なって実施日を決めるのが難しい。



←すいとんいただきました！



全域「クリスマス会」 ボランティアつくしんぼ (代表 渡部 ユキ子さん)

- 参加者数 16名
- 実施内容 つくしの会の皆さんとクリスマス料理をつくったり、プレゼントを交換する
- 参加者の感想・今後の課題 音楽に合わせて体を動かしたり、会員による昔語りを聞いたりして楽しい時間を過ごせた。



↑音楽に合わせてみんなで体操



地域ふれあいサロン・町場全盛と・ふつと

参加者が
輪をつくり
話し
和み
明日への活力へ

地域ふれあいサロンの現状・・・

「地域ふれあいサロン」は、住民同士が手軽に自然な交流ができる場所として、高齢者の閉じこもり予防を目的に取り組みが始まりました。その数は、近年激増し、地域福祉をより円滑に推進するためにはなくてはならない場のひとつになっています。

交流による余暇の充実や孤独感の解消、認知症の予防といった平時におけるサロンの機能は、災害時に被災者の心と身体のケアやニーズキャッチの面において重要な役割を果たすことが確認されました。

今後、介護予防の観念はもちろんのこと災害予防や災害時対応の観点からもサロン活動が展開され、「地域づくり」においてより大きな役割をはたしていくのではないかと考えられます。



サロン活動の特徴

- ☆「地域交流の場」・・・互いの違いを分かり合い、助け合う場
- ☆「住民が主役」・・・皆が参加者という考え方
- ☆「出入り自由」・・・気軽さが信条
- ☆「アイデア勝負」・・・やりたいことをして楽しめよう

サロンの効果

- ◇つながりづくり・・・ご近所さんを増やしましょう
- ◇心の健康維持・・・社会とつながりましょう
- ◇体の健康維持・・・みんなでやれば続きます
- ◇情報共有・・・知りたいことが分かります



サロンの魅力 再発見

【松原はつらつクラブ（会員16名）】
11月の松原はつらつクラブは、参加者全員で料理教室を開催しました。参加する側とお世話したり協力したりする側の垣根を作らず、皆が役割を共有し参加者の意向を尊重した自由な運営で毎回賑やかなサロンになっています。



【ひまわりサロン】（宮下・荒屋敷・桑原・中平地区）



みんなで集まって
楽しもうよ

会員数は、サロンの中でも一番多く33名で毎回大勢の方が参加し活発に行われています。

サロン開催をきっかけに会員同士の連帯感が強くなり、サロンの日は、誘い合って参加するようになっています。又、「今日は〇〇さん来ないね」というように異変に気付く（ニーズを発見・把握する）機会となったりしています。



滝谷「世代間交流と健康講話」 （代表 大竹 勝芳さん）

○参加者数 40名

○実施内容

町保健師さん栄養士さんによる健康寿命を延ばすための町の取り組みや、血管年齢測定など健康講話と世代間交流を兼ねた昼食会を開く。又、出席できない90歳以上の方には配食をする。

○参加者の感想・今後の課題

同じ地区に住んでいても冬場顔を合わせる機会がなく久しぶりお会いする方もいて楽しい一日を過ごすことができました。



↑町の保健師さん栄養士さんによる健康講話

浅岐「世代間交流クリスマス会」 ボランティアさゆり会 （代表 角田 ツヤ子さん）



○参加者数 23名

○実施内容

地区の高齢者・異世代の人と一緒にクリスマス会を行い楽しい時間を過ごす

○参加者の感想・今後の課題

地区内在住のアカデミーの生徒さん、新しい住民の方も参加してくれて楽しくにぎやかな一日を過ごすことができました。

ゲームはいつもワナゲなので、何か新しいゲームがあるといいなあと思いました。



↑食事も彩りよくおいしくできました

松原「新そば会」 ボランティア松原 （代表 片山 一雄さん）

○参加者数 25名

○実施内容

地区内に住む若男女が一堂に会し、そば会を開催する。3年ぶりの開催となるため地域を明るく元気よくするため参加者同士、各世代を超えた交流を図る。

○参加者の感想・今後の課題

異世代交流ができて楽しい時間を過ごすことができました。もう少し地区の方が参加できるよう声かけ等を行っていきたい。



↑仲良し三姉妹はいつも参加してくれまう



↑奉仕団員15名で35枚の絵手紙を描きました。

全域「絵手紙で温かな心の交流事業」 三島町赤十字奉仕団 （代表 青木 信子さん）

○参加者数 50名

○実施内容

町内在住で85歳以上一人暮らしをされている方に温もりがこもった絵手紙を送る。

○参加者の感想・今後の課題

経験ゼロでも楽しみながら絵を描くことができ、個性豊かな作品がたくさんできました。絵手紙を受けとった方から「ありがとう」の声が届き、とってもうれしかったです。



平成29年度 歳末たすけあい運動実績報告

総額 649,744円

宮下	1	64,500円
荒屋敷	1	5,500円
桑原	1	3,200円
中大	1	7,500円
川平	2	3,100円
松登	2	6,000円
滝井	4	1,700円
大原	4	1,000円
浅谷	4	4,700円
間岐	1	3,300円
西方	2	3,100円
大石	8	9,000円
名田	5	1,700円
小入	2	4,400円
高山水	2	800円
滝清	1	7,000円
早原	1	2,500円
そ戸	1	4,700円
の他	1	4,044円
合計	6	49,744円

平成29年12月1日から12月31日まで行われた「歳末たすけあい運動」（実施主体：三島町民生児童委員協議会・福島県共同募金会三島町共同募金委員会・三島町社会福祉協議会）へは、町内多くの皆様から温かい善意により総額649,744円の募金がありました。

民生・児童委員さん（地区在住の委員さんがいない地区は区長さん）による戸別募金のほか、次の団体からは一般寄附がありました。

- ◎宮下婦人会
- ◎三島町赤十字奉仕団
- ◎会津信用金庫宮下支店

（順不同）



▽歳末たすけあい運動配分内訳▽

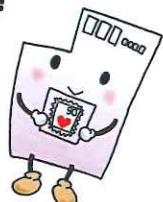
○要援護者への見舞金贈呈事業	7,000円
○「桐寿苑」への行事等贈呈助成事業	30,000円
○地域ふれあい配分事業（高齢者生活支援）	96,690円
○地域ふれあい配分事業（世代間交流）	167,636円
○障がい者社会復帰事業	16,614円
○地域福祉サービス事業費（30年度地域事業）	331,804円

歳末たすけあい運動への御協力ありがとうございました

エコキャップ回収に御協力ください



使用済み切手
書き損じハガキ
使用済みインクカートリッジ
随時受付中！



NHK海外たすけあい募金

三島小学校 様
三島町赤十字奉仕団 様

NHK海外たすけあい募金とは・・・

毎年12月にNHKと日本赤十字社が共同で実施している募金キャンペーンで皆様からご協力いただいた募金は、赤十字が行う開発途上国の開発協力事業に使われます。



↑ 三島小学校6年生の皆さんと矢澤日赤三島町分区長

みしま地域でより
ゆいほと

●編集・発行
社会福祉法人
三島町社会福祉協議会

〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字下乙田889

TEL 0241 (52) 3344 FAX 0241 (52) 3343

E-mail: shakyo@town.mishima.fukushima.jp

HP: http://www.mishima-shakyo.aizu.or.jp/